

保護者の皆さまへ

吹田市立山田第五小学校
校長 佐々木 康雄

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月下旬に個人ごとに結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

◆国語〈概要〉

本校児童の平均正答率は、「言葉の特徴や使い方に関する項目」以外のすべての領域において全国値をやや上回っている。

●国語〈各領域における成果と課題・指導改善のポイント〉

話すこと・聞くこと

- ・正答率は、全国値をやや上回っている。
- ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいことの内容を捉えることができている。
- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることがやや苦手である。

書くこと

- ・正答率は、全国値を上回っている。
- ・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができている。
- ・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができている。

読むこと

- ・正答率は、全国値を上回っている。
- ・登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることができている。
- ・登場人物の相互関係について、描写を基に考えることができている。
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。
- ・表現の効果を考えることがやや苦手である。

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・正答率は、全国値をやや下回っている。
- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解することができる。
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題がある。
- ・漢字を文の中で正しく使うことにやや課題がある。

我が国の言語文化に関する事項

- ・正答率は、全国値を下回っている。
- ・行の中心に文字の中心をそろえて書くことの大切さを意識して書くことに課題がある。

●国語科における今後の改善点について

◇主な課題

- ①互いの立場や意図を明確にしながらか話し合い、自分の考えをまとめること。
- ②文の中で言葉や漢字を正しく使うこと。
- ③漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを意識させること。

◇指導改善のポイント

※話し合い活動を継続して行い、自分の考えをまとめ、伝える機会を増やしていく。

※漢字の力を定着させるように既習の漢字を復習する。(山五漢字検定など使用)

※相手にとって読みやすいかということを意識しながら書く(ポチのさんぽなど)

◆算数《概要》

・本校児童の平均正答率は、全国値をやや上回っている。

●算数《各領域における成果と課題・指導改善のポイント》

数と計算

・全国値を上回っている。

・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができている。

・かけられる数に空位がある整数の掛け算の正答率が全国値をやや下回っている。

・二桁の掛け算の答えが、指定された数よりも必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を考えることに課題がある。

・足し算と掛け算の混合した計算をすることに課題がある。

図形

・全国値を下回っている。

・正三角形やひし形の意味や性質を基に、図形を作成する手順を考えることに課題がある。

・示された作図の手順を基に、作成することのできる図形を選ぶことに課題がある。

変化と関係

・全国値とほぼ同じである。

・百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができている。

・同じ割合の飲み物を分けた場合、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。

データの活用

・全国値を上回っている。

・表の意味を理解し、ある項目に当てはまる数を求めることができている。

・目的に応じて、必要なデータを読み取ることができている。

●算数科における今後の改善点について

◇主な課題

①空位のある掛け算や、四則の混合した式、() を用いた式について理解し、正しく計算すること。

②図形の意味や性質、構成の仕方を理解すること。

③割合の意味を理解すること。

◇指導の改善ポイント

※いろいろな形の計算を繰り返し練習する。

※関連している単元の時に既習内容の課題を振り返る。

※学習したことを生活に結び付けていく。

◆理科《概要》

本校児童の平均正答率は、「地球を柱とする領域」以外のすべての領域において全国値をやや上回っている。

●理科《各領域における成果と課題》

◎『基礎・基本的な知識・技能』に関する問題

・全国値をやや下回っている。

・基礎基本となる科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。

◎『知識・技能の活用』に関する問題

・全国値を上回っている。

・情報や結果を分析・検討し自分の考えを持ち、それを記述することができている。

粒子

- ・メスシリンダーの適切な操作方法を身に付けている。
- ・情報を基に自分の考えをもち、それを記述できている。
- ・水が水蒸気として空気中に含まれているという概念の理解に課題がある。

エネルギー

- ・光の性質についての理解に課題がある。
- ・実験結果から自分の考えを持ち、それを記述できている。

生命

- ・昆虫であるかどうかを説明する視点、昆虫の体のつくりの理解に課題がある。
- ・調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できている。

地球

- ・冬の天気や気温の変化についての理解に課題がある。
- ・グラフを分析して考察し、自分の考えをもつことはできている。

●理科における主な課題と今後の改善点について

◇主な課題

- ①科学的な言葉や概念の理解
- ②既習内容を実際の自然や日常生活の事実・現象に当てはめて考えられるようにすること
- ③学んだことの自然の事物・現象への適用

◇指導の改善ポイント

- ※実験や体験活動を通して、具体的に概念を理解できる授業とそれを定着させるために復習指導を引き続き行っていく。
- ※自然の事物・現象の変化や規則性を捉え、これまでに獲得した知識を適用する場面の重要性について意識するような授業

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・毎日朝食を食べている児童の割合は大阪府・全国値をやや下回っている。
- ・毎日決まった時刻に就寝している児童の割合は全国値を上回っている。
- ・毎日決まった時刻に起床している児童の割合は全国値をやや下回っている。
- ・携帯電話、スマートフォンの使い方について、家の人と約束を守っている児童は大阪府・全国値を上回っている。
- ・テレビやビデオ、DVDを観たり、コンピューター・スマートフォンを使ったゲームをしたりしている時間は、全国値と比べて短い。
- ・自分には良いところがあるという自己肯定感を持つ児童は大阪府・全国値を上回っている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童は、全国値より上回っている。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する気持ちがある児童は、大阪府・全国値を上回っている。
- ・学校に行くのが楽しいと思う児童が、大阪府、全国値を上回っている。
- ・自分でやると決めたことをやり遂げるようにしている児童は大阪府・全国値を上回っている。
- ・読書が好きだと思っている児童は全国値を上回っている。学校の授業時間以外で読書をしている時間が全国より長く、2時間以上読書をする児童の割合は15%近くいる。新聞を読まない児童は7割近くいる。
- ・地域の行事に参加していると答えた児童は全国値より少ないが、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあると答えた児童は全国値を上回っている。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないという質問に対して、ほぼ全員が肯定的な回答をしている。

【教科・学習について】

- ・学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使っている児童は全国値を上回っている。
- ・学校の授業などで、自分の考えがうまく伝わるよう工夫していた児童は全国値を上回っている。
- ・学校の授業などで、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた児童は全国値を上回っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると感じている児童は全国値を上回っている。

- ・学習した内容などについて、わかった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童は全国値を上回っている。
- ・国語の授業が好きだと思っている児童は全国値を上回っているが、国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思っている児童は全国値をやや下回っている。
- ・算数の授業が好きだと思っている児童は全国値を上回り、大切だと思っている児童も全国値を上回っている。
- ・算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える児童は、全国値を上回っている。
- ・算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童は、全国値を上回っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動では、友達の考えを受け止めて自分の考えを伝える児童が全国値を上回っている。
- ・理科の授業が好きだと思っている児童は全国値を上回り、理科の授業を大切だと思っている児童は全国値を上回っている。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている児童が全国値を上回り、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている児童は全国値を上回っている。

3 今後の取り組み

本校では、「自ら考え 主体的に活動する 優しくたくましい子を育てる」を教育目標とし、「よく考える子、助け合う子、元気な子」を目指す子ども像に掲げ、日々教育活動に取り組んで参りました。

国語科においては、漢字学習の定着を図るため、「山五漢字検定」に取り組んでいます。また「読書大好き児童」を育てるため、学校図書(蔵書約 10,000 冊)や学級文庫を充実させると共に、「朝の読書」等の時間を設けるといった工夫により、昨年度の学校図書貸出冊数が約 10,000 冊を超えました。図書に関する企画として「ビブリオカップ」も行っています。

算数科においては、一人ひとりを細かく見ていくための少人数指導や、計算力の定着を図るためのダイヤモンド大作戦を引き続き実施していきます。なお、ダイヤモンドは本校児童の課題に合わせて、改訂していきます。

日々の授業においては、落ち着いて学習に取り組めるよう、チャイムと同時に授業を始める、机から 30cm 目を離して文字を書く。移動時はいすや机を整頓する。下敷きや先のとがった鉛筆を使うといった学習規律を身につける指導にも力を入れて取り組んでいます。

本校独自のモジュールやパワーアップタイム(PUT)では、各クラス様々な内容で児童の基礎学力や能力向上を目指しています。

これからも各教科における基礎・基本的な知識・技能の獲得を目指すと同時に「自分の考えをまとめる」「考えた根拠を示し、表現する」「応用問題にも粘り強く取り組む」ことができるよう、工夫を重ね、学ぶ意欲を高める授業作りを進めて参ります。

生活習慣に関する結果からは、特にコロナ禍、規則正しい生活を心掛ける必要があることが分かります。また、タブレット、スマートフォンを使用することで犯罪などに巻き込まれないためにも、使用方法や時間を決めるなどのルール作りをしていくことが大切です。一人一台タブレットを利用できる環境が整ったこともあり、学校でも、全学年「携帯電話安全教室」を開き、この大切さを伝えています。

学習環境に関する結果からは、ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じる児童が多数いることが分かりました。一人ひとりが更に成長していくためにも、「将来の夢や目標をもち、難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する気持ち」をもつことが大切でしょう。また、新聞やニュース、地域の活動等の日常生活での体験を通して、様々な事柄に興味や関心を持つことも、子どもの心身の成長につながると考えています。

教科・学習に関する結果からは、国語・算数・理科の授業で学習したことは将来役に立つと思っている児童が多いことが分かりました。その気持ちを大切に、一人ひとりの児童に応じた学力の向上を目指します。

- また、二要素を関連付けた分析では、以下の項目で肯定的な回答をしている児童・生徒の方が、正答率が高い。
- 普段、1日当たり、テレビゲーム(コンピュータ・携帯・スマホを使ったゲームも含む)をする時間が短い。
 - 家にある本(雑誌、新聞、教科書は除く)の冊数が多い。○読書が好き。○授業中の私語が少なく、落ち着いている。
 - 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている。

以上を踏まえ、ご家庭と十分連携をとりながら、児童の自立と幅広い学習の機会を作っていこうと考えております。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。